

協設電県

# 熊本高森線を清掃

## 1年ぶりに活動開催

熊本県電設業協会(岩崎裕会長)の会員とその家族ら143人が6日、熊本市中心街の熊本高森線で清掃作業に取り組んだ。

熊本市との協定に基づき、春と秋の年2回実施している「道路ふれあい美化ボランティア活動」。新型

コロナウイルス感染症の影響で5月の活動が中止となったため、今回は約1年ぶりの開催となる。

作業前、兼子利憲安全福祉委員長(タイハイテクスノス)の開始挨拶が代読され、「県内では、少しずつ社会経済活動の再開に向けた動きも出てい

る。コロナ禍以前の生活にまた戻らないが、活動を通して少しでも地域社会に貢献して欲しい」と呼び掛けた。

白川の大甲橋から坪井川の桜町橋までの1.5キロを清掃。雨が降る中、参加者は、歩道や植樹帯に捨てられたペットボトル、空き缶、ビンなどを約1時間かけて拾い集めた。

協会のボランティア活動は、国道の管理が行われる以前に県と協定を結んでいた「ロード・クリーン・ボランティア」を含めると通算24回目。

